

黒板とチョークでやる気を引き出す

3
分間
ストー
リー

第1回

鬼に金棒

学校に来る目的を考えさせるストーリー



大阪府堺市立鳳南小学校教諭

三好 真史

みよし しんじ 持ち歩くノートには、ストーリーのタイトルを箇条書きにしています。心に響くタイミングを見計らい、サッと語れるように心がけています。



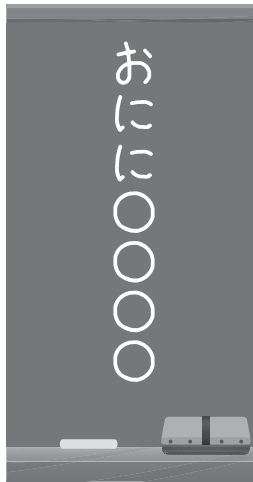
桜舞う四月。いよいよ新しい学年が始まります。子どもたちの多くは、気持ちを引き締めて学校へとやってきました。意識の高まっている今だからこそ、あらためて学校へ来る目的について考えさせてみるとういでしょう。

一番弱いオニはどれ？

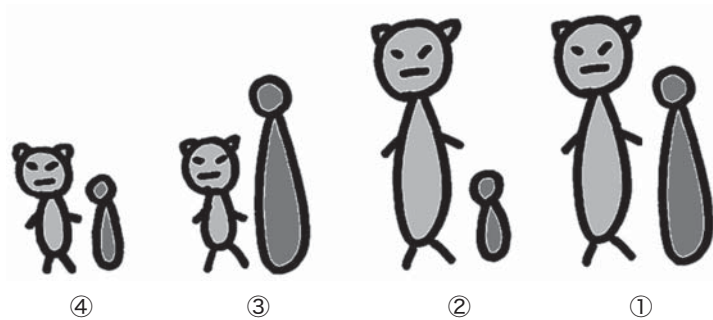
みなさんは毎日、学校へ来ますよね。

さて、考えてみてください。みなさんは、いったい何のために学校へ来ているのでしょうか。それを考えるために、このお話をします。

○の中に、何という字が入るか、わかりますか？



「カナボウです！」
そつ、金棒！ よく知っていますね。
鬼に金棒。



これは、ことわざです。
もともと強い者が、いっそつ強い力を身につけるといっつ意味です。
さて、ここに金棒を持ったオニがいます。その数、なんと四人！
この四人のオニのうち、最も弱いオニはどれでしょうか。

- ① 大きなオニに、大きな金棒
- ② 大きなオニに、小さな金棒
- ③ 小さなオニに、大きな金棒
- ④ 小さなオニに、小さな金棒

正解は、③です。うーん、不思議ですね。大きな金棒を持っているのに、どうして弱いといえるのでしょうか。

①②④のオニは、体が金棒より大きい。だから、思いどおりに金棒を振り回すことができます。

でも、③だけは、オニより金棒のほうが大きい。これでは、金棒をつまぐ使うことができません。自分のほうにドンツと倒してしまうかもしれません。まったく関係のない人を傷つけてしまうこともあるでしょうね。自分の思いどおりに金棒を動かすことができない。だから、③が最も弱いといえるのです。



「人間性」を身につける

ここでいう金棒は「学力」、オニは「人間性」を表しています。

つまり、いくら勉強ができたとしても、「人間性」が育っていないとダメなのです。もしかすると、その高い「学力」を使って、自分やほかの人を傷つけてしまいかもしれないからです。さっきの弱いオニのようですね。

では、「人間性」を高めるためには、どうすればいいのでしょうか。

それにはまず、「人のためにできることは何か」を考えて行動することです。そうすると、「人間性」はグングン高まります。

勉強だけだったら、お家でもできます。でも、「人間性」は、ほかの人がいなければなかなか身につけません。だから学校に来てみんなで勉強しているのです。

「学力」と「人間性」。このどちらの力も身につけられるよう、みんなで支え合いながら学習を進めていきましょうね。

【解説】

このストーリーは、授業開きの際に話すのが効果的です。授業はじめの3分間に語り、それから授業を進めるようにしましょう。

特に塾で熱心に勉強している子は、「勉強さえできればいいんだ」と考えていることがあります。残念なことですが、有名大学に入りながらも、その知識を悪用してしまう人もいます。世のため・人のために学力を使おうとする心を養う必要があるといえるでしょう。

板書の際には、オニを四匹描かなくてはいけません。これが結構大変です。ただ、オニの顔や姿を一匹ずつおもしろおかしく描いていけば、「次はどんなオニかなあ？」「ワッ、今度のオニの金棒、小さいなあ！」などと、子どもたちも喜びます。

*

今月から、子どもの心を育てるためのストーリーをぞくぞく紹介していきます。どうぞお楽しみに。